

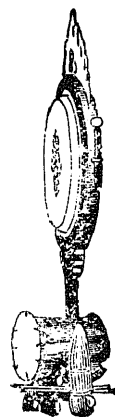
婦人と子ども

第一卷第二號

(明治三十四年二月十一日)

子ども

本欄凡て轉
載を禁ず



いさましー少女

皆さん アメリカ とゆー國を ごぞんじでしよ。こ
の國わ 大變大きな 強い國ですが もとわ イギリスの
領分でしたのが 丁度今から 二百年ほど前に イギリス
と 戦争をして 夫から とうく 立派な一の國にな
ったのです。

その戦争について 面白いお話が ありますから こゝ
で一つお話して見ましょ。

アメリカカ方がたの大將たいしやうで、 그리스ナルド とゆー人ひとが、 或時あるとき
イギリスの 兵隊へいたいに おつかけられて 親類しんらいの家うちえ にげ
こんだのです。すると 敵てきわ それを知しつて また そこ
え 追おっ驅かけて來きた。これこれでわ 堪たまらんとゆーので またそこ
を 飛こびだして さつき 道みちからみえぬ所ところに 船ふねを繫つないでお
いた 小河こがわの 葭よしの中なかえ かくれよーと思おもつて その方ほうむ
いて すたくと かけ出だしたのです。

すると 道側みちがはの 草原くさうの上うへで 十二じふにばかりになる 女おんなの子こ
が 白しろい布ふを 一いっばい そこらえ擴ひろげて それに水みづをかけ
て さらして居いたのが 吃驚びっくりして 大おほな目めを張はつて 「おや
まー 吃驚びっくりしたこと 誰だれかと思おもつたら 叔父おじさんじゃないか

どーなすつたの」と尋ねました。「おー お前わ へッチー
じやないか 今ね イギリスの兵隊が大勢で 叔父さんを
追驅て来るんだから 来たら叔父さんが どっちえ行つた
か」といつて お前に 尋ねるに違ない。だから お前わ
叔父が 郵便車を取に 彼方え行つた といつて呉れ そ
ー言たら兵隊わ きつと彼方え引返して行くから ね へ
ッチー 頼むよ」「だつて叔父さん どーして ほんとして
ないことを そー言われましょー。私か知らなけりや 知
らんと ゆーんですけれど……」『それでわ お前 叔父さ
んを 敵に殺させるとゆーものだ……』 そら 言つてる中
に もー敵が来るでわないか そら 馬の足音が 聞える

よ ね ヘッチー 叔父さんか 言った様に言つて呉れ
 神様か きつと お前を恵んで下さるからね さー 宜い
 か ヘッチー「うそを言」子を どーして神さまが 恵ん
 で下さるもんですか。 併叔父さん ご安心なさい 私殺さ
 れたつて 叔父さんの逃げ道を 申しませんから よ 宜
 ーでしよー さ 早くお逃げなさい さ 早くく」と
 せきたてました。

話の中に 敵の足音が だんく近よつて來ましたので
 叔父さんわ 急にあわて出して「あ もー逃げるにも遅な
 った どこか隠る所わ ないかしら どこが いーか へ
 ッチー」「おや さー大變 もー其所え 來ましたよ さー

早くしないと 叔父さん さー早く こゝえ ねころびな
さいな 私が其上え 白い布を かぶせて 上から 水を
かけていますから さー さー 早くなさいな 見つかる
といけないから」『そーだ おー も夫ほか 仕様があるま
い』と といって 叔父さんわ ねころんだ。其上え 幾枚とな
く 布をかぶせかけて 上から 一生懸命に さぶくと
水をふりかけて いました。

所え間もなく 騎兵の士官が 鞭をあげて かけつけて
きました 恐しい顔付で 大きな聲をして 『こら 娘 今
こゝえ 一人の男が にげていかなんだか』とおどしかけた。
すると 少女わ平氣で 『さよーで』と 答えました。士官わ



また「どつちえ行つた」六「そ
れわ 申まされませぬ 誰たに
も言いわぬと約束やくそくしましたか
ら」と言いつて しきりに
水みづをふりかけて居いて どの
様ようにおどしても 何なんとも言い
わない。そこで士官しやくわんのお供ご
が「私わたしわ よくこの子こを知し
て居いますから一つ尋たづねて見み
ましょー」と云いうので 側そば
えきて「これお前まへわ へッ

チーじゃないか　そして逃げた男わ　お前の叔父さんだる
ー　こゝを通る時何と聞いた　さ早く言ーなさい」「はい
叔父さんわ　敵に追かけられるから　逃げるんだ　と言ー
ました」「うんそーか　どっちえ行つた」「叔父さんわ　船を
見附るのに河え行くのだが　敵が來たら　郵便車の方え行
つた　と言つて呉れと　いーました」「あー分つた　いー子
だ　叔父さんを　助ける爲でも　うそを言わぬと　言つた
のだな。　其時叔父さんわ　何と言つた」「ハイ　それでわ
叔父さんを　敵に殺させるとゆーものだつて」「あそーか
夫でお前わ　殺されても逃げた道を敵に　言わぬと約束し
たのだな」「さよーで」と言つて少女わ　涙を　どんく流

して居ます。「叔父さんわ 喜びなすつたるゝ すたく 逃

なすつたるゝね。そして 何方へ行つた え 『それわ申さ

れません』「あそーだっけ 忘れて居た 併し 叔父さんわ

一番終に何と云つたの』「あのね 叔父さんわ そーそれほ

か仕方あるまいって』

へッチーわこー云つて大聲を擧げて泣き出して 前掛で

顔を隠して仕舞いました。

そこで兵隊も もー聞く丈聞いたと思つて 河側の方え

行きましたか 人の影わ もーございませんから 遠くえ

逃げていったと思つて もと來た道え 歸りました。

グリスチルドわ 前から小さくなつて 布の下に 隠れ

て 上からさぶく水をかけられて居たのですが もー誰
も居ないと言ーのを聞いて びしょぬれになって出て来ま
したが 夫でも やつとの事で命が 助かったのです。
あとで戦が仕舞ってから グリスタルドわ 生れた子に
ヘッチーとゆー名をつけて このいさましー 姪に助けら
れたことを いつまでも忘れない様に致しましたとき。 何
とえらい少女でわありませんか。

鳥と子ども

皆さん ごらんなさい この子わ 学校えも 行かないで
石盤や 本を わきに おいて こんなとこに ねころん